

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校		平成8年3月4日	富田 博之		〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999		
目的	コンピュータのスペシャリストとしてIT時代をリードする人材となるために、プログラムの基礎から応用まで幅広く学習し、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるコンピュータエンジニアを目指す。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		コンピュータシステム科		平成19年文部科学省告示第21号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
	2年		1866	940	926	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		38 人の内数		2 人の内数	7 人の内数	9 人の内数	
学期制度	■前期:4月1日から8月31日まで ■後期:9月1日から3月31日まで		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 「教育目標」に準じた総合評価を行う。評価はS・A・B・C・Dの5ランクとする。		
長期休み	■夏季:8月1日~8月31日 ■冬季:12月23日~1月8日 ■春季:3月1日~3月20日		卒業・進級条件		ア. 指定科目すべての履修・修得 イ. 卒業基準検定の取得 ウ. 出席率が90%以上 エ. 学生としてふさわしい生活態度		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人、保護者への電話連絡等を行う。		課外活動		■課外活動の種類 ボランティア等 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 IT業界		主な資格・検定等		経済産業省 基本情報技術者試験 経済産業省 応用情報技術者試験 経済産業省 情報セキュリティ スペシャリスト試験 サーティファイ C言語プログラミング 能力認定試験 サーティファイ Javaプログラミング 能力認定試験		
	■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する 平成29年4月1日時点の情報)						
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成28年4月1日時点において 在学者 29名 平成29年3月31日時点において 在学者 29名		■中退率 0% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)				
	■中途退学の主な理由 ■中退防止のための取組 担任、学校カウンセラーによるガイダンス、家庭への電話連絡や三者面談の実施。						
ホームページ	http://www.asojuku.ac.jp/abkc/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校では、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、企業等と意見交換等を通じて、より実践的な職業教育を行うことを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年6月20日現在

名前	所属	任期	種別
富田 博之	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長	H29/4/1 ~ H30/3/31	
高橋 賢二	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 校長代行	H28/10/1 ~	
角屋 隆之	北九州市 産業経済局 企業支援・産学連携部 情報・通信産業担当課長	H29/4/1 ~ H30/3/31	①
小峰 正仁	(株)メンバーズ 取締役 兼 常務執行役員	H28/10/1 ~	③
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H28/10/1 ~	③
毛利 俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 副主任	H28/10/1 ~	
美田 佳奈	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	H28/10/1 ~	
西川 裕一	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	H28/10/1 ~	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

平成28年度は6月2日と11月11日の2回、実施した。平成29年度も6月と11月の2回実施予定。

(開催日時)

平成28年度第1回 平成28年 6月 2日 17:40～18:05 全体会 18:50～19:40 分科会

平成28年度第2回 平成28年11月11日 17:30～17:50 全体会 18:45～19:45 分科会

平成29年度第1回 平成29年 6月23日 18:00～18:30 全体会 19:30～20:00 分科会 (予定)

平成29年度第2回 平成29年11月10日 17:00～17:45 全体会 18:30～19:15 分科会 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会では、(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、(3)教科書・教材の選定に関する事項、等の意見交換を行っており、授業等の中で活用を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術を学ぶ授業を、企業との連携により実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とし、狭い意味での技術だけではなく企業における開発手法や、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等を学ばせる。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
Webデザイン制作演習	基礎技術を学習した後、与えられたテーマのwebサイトを実際に作成、発表を行い、企業の方の講評を頂く。	(株)メンバーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。システムエンジニア科においては、IT業界において必要とされる、実践的かつ専門的な能力を育成するために必要な知識、技術、技能などについて実施される、職能団体や企業が実施する研修やセミナー等に、積極的に教員を参加させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

専門学校講師交流ワークショップ

② 指導力の修得・向上のための研修等

インストラクショナルデザイン研修
アカデミックハラスメント研修

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ICTを活用した先進的授業事例研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

インストラクショナルデザイン研修
クラス運営研修
カウンセリング研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検の結果に基づき、学校関係者評価委員会を行う。委員会では、委員からの意見を聴取し、学校全体の運営や地域との係わり合い方について議論する。PTAや卒業生、地域住民などはそれぞれの立場から、学校運営に関わる意見を出す。学校関係者評価委員会の結果は次年度の自己点検活動に活用していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は、明文化し社会に公表しているか。 ・理念は学校法人から各学校、各学科等、各レベルの理念や目的に展開し、学校構成員に共有されているか。
(2) 学校運営	学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか
(3) 教育活動	・各学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みがされているか。 ・各学科の教育目的、育成人材像に向けた教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みがされているか ・各学科の教育目的、育成人材像に向けた業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みがされているか
(4) 学修成果	各学科の教育目的、育成人材像に向けて、その達成への取り組みと評価がされているか
(5) 学生支援	・各学科の教育目的、育成人材像に向けて、学生支援が整備され組織的に行われているか(在学時) ・各学科の教育目的、育成人材像に向けて、学生支援が整備され組織的に行われているか(卒業後) ・学校情報の提供
(6) 教育環境	各学科の教育目的、育成人材像に向けた教育環境が整備・活用されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行ない、入学選考は公正かつ適切に実施しているか
(8) 財務	財務体質が健全であり財務運営が適切に行われているか
(9) 法令等の遵守	各学科の教育目的、育成人材像に向けて、自己点検・評価活動の実施体制が確立して、改革・改善のためのシステム構築がされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか

(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成28年6月2日の学校関係者評価委員会において、企業関係者、高等学校関係者の方より次のような意見、質問をいただいた。
 ・細かい時間配分までの詳細なシラバスの作成は必要ないのではないか？ 学生の理解度に応じた柔軟な対応が必要なので、詳細なシラバスの作成に教員の限られた時間を割く必要はないのではないか。

- ・制作現場と学校の設備環境、特にソフトのバージョンに差が出ている(CG系)。
- ・卒業生の1年後の就業状況を把握することで教育効果、達成度を測るとしているが、企業からの回答率はどのくらいか？
- ・地元の商店街のHPを作成するなど、専門分野を活かしたボランティアを実施してみてもどうか？

以上いただいたご意見を踏まえ、下記の施策を実施している。

- ・シラバス・授業報告書の作成について、委員の方からのご指摘も踏まえ、書式や運用の最適化を検討する。
- ・設備環境の整備【CG系】については、平成28年9月より最新PC、ソフトウェアを導入し、運用している。
- ・卒業生の就職先を、就職部が中心となって訪問することにより、卒業生の終業状況の確認、企業と卒業生のマッチ具合、就職先企業の社風や求めている人材像のリサーチ等を実施している。この情報を教員と共有することにより、学生と受験先企業の mismatch を防ぐような就職指導を行っている。
- ・「どのような学生を育てるべきか」という学科ごとの指標を踏まえ、「企業連携」「インターンシップ」の拡充を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年6月20日現在

名前	所属	任期	種別
岩本 康明	福岡県立小倉商業高等学校 校長	H29/4/1～H31/3/31	高等学校関係者
小牟田 尚美	ゲームクリエイタ科3年生の保護者	H29/4/1～H30/3/31	保護者
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	H27/10/1～H29/9/30	卒業生
安倍久美子	地域住民代表	H29/4/1～H31/3/31	地域住民
小峰 正仁	(株)メンバーズ 取締役 兼 常務執行役員	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	H29/4/1～H31/3/31	企業関係者
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	H27/10/1～H29/9/30	企業関係者
上田 浩二	ガレージインク 代表	H28/10/1～H30/9/30	企業関係者
伊藤 洋平	(株)安川ビジネススタッフ 営業企画本部 営業企画課長	H28/10/1～H30/9/30	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:

http://www.asojuku.ac.jp/wp-content/uploads/2016/07/01_abkc.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を通じ、学校の情報を提供していく。また、ホームページでも公開し、随時閲覧可能とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育方針、麻生の教育、歴史、麻生塾の魅力、ASOの考え方、5つの特徴、アクセス
(2) 各学科等の教育	募集要項、取得可能な資格、プログラム、COURSE、資格取得実績、就職実績
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	GCB教育、就職サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校生活、施設・設備
(6) 学生の生活支援	クラス担任制度によるきめ細かなサポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	教育提携・連携、ASOのグローバル教育、入学案内
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

学校法人麻生塾URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

麻生情報ビジネス専門学校北九州校URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程コンピュータシステム科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎理論	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○				○
○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験取得にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験取得にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			データベース	基本情報技術者試験取得にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ	1前	16		○			○			○	
○			アルゴリズムⅡ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする	1後	60		○			○				○
○			テクノロジー技術	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ	1後	90		○			○			○	
○			C言語Ⅰ	C言語について、文法と基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○				○
○			C言語Ⅱ	C言語について、応用知識を学びプログラムが組めるようになる	1後	60			○		○				○
○			基本情報基礎特別講座(秋向)	1年生の秋受験に向けた、午前対策の授業	1前	30		○			○			○	○

○		情報処理試験 講座 I (春向)	2年生の春受験の国家試験対策授業	1 後	46			○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座 II (春向)	2年生の春受験の国家試験対策、直前授業	2 前	76			○			○			○	○		
○		情報処理試験 講座 II (秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策授業	2 前	30			○			○			○	○		
○		情報処理試験 特別講座 (秋 向)	2年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	2 後	60			○			○			○	○		
○		情報処理活用 I	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学 ぶ	1 前	30					○			○				○
○		情報処理活用 II	Excelの関数やグラフ機能など、応用知識を 学ぶ	1 後	46					○			○				○
○		データベース 演習	Accessの操作方法を学ぶ	2 後	16					○			○				○
○		実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用 いて学ぶ	2 前	16					○			○				○
○		Excel VBA	ExcelのVBAを学び、応用力を身につける	2 後	16					○			○				○
○		プレゼンテーション	パワーポイントを使ったプレゼンテーショ ン技法を学ぶ	2 後	16					○			○				○
○		C言語演習	C言語のプログラミング実習を行い、実際に プログラムを作成し、知識を深める	1 後	76					○			○				○
○		Oracle SQL I	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I 基礎の資格取得を目指す	1 後	60					○			○				○
○		Oracle SQL II	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I 基礎の資格取得を目指す	2 前	60					○			○				○
○		Visual C# I	Microsoft社のVisualStudioから、C#の基礎 から実際のプログラミングまで学ぶ	2 前	60					○			○				○

○		Visual C# II	Microsoft社のVisualStudioから、C#のプログラミングをより深く学ぶ	2後	46			○	○	○							
○		Webデザイン基礎	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ	2前	60			○	○	○							
○		Webデザイン制作演習	JavaScriptやJquery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ	2後	60			○	○	○	○	○					
○		Java基礎	Javaの文法やオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1後	76			○	○	○							
○		Javaプログラミング	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでプログラミングを学ぶ	2前	46			○	○	○							
○		Java応用	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでシステムを開発してみる	2後	46			○	○	○							
○		Linux基礎	Linuxのコマンドなど、基礎的なことを学習する	2後	16			○	○								○
○		一般教養 I	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	1後	16			○		○							○
○		一般教養 II	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2前	16			○		○							○
○		ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ	1後	16			○		○							○
○		文章表現	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	2前	16			○		○							○
○		GCB I	グローバルシチズンベーシック I（感謝心と思いやり）について学ぶ	1後	16			○		○							○
○		GCB II	グローバルシチズンベーシック II（志をたてる）について学ぶ	2後	16			○		○							○
○		就職実務 I	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	1後	30			○		○							○

○		就職実務Ⅱ	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	2前	46		○		○	○		
○		卒業研究Ⅰ	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	2後	30		○		○	○		
○		卒業研究Ⅱ	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	2後	90		○		○	○		
合計				42科目			1866単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たせない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。